

**JACDS**

日本チェーンドラッグストア協会

# 標準EDI(流通BMS) 業界標準導入プログラム

- 差し迫る流通BMSの導入時期と  
導入のポイントについて -

## EDIの現状(P2～)

今利用しているEDIが使えなくなる  
流通BMS以外の方法はない  
守らなければ効果は薄まる

## 流通BMS導入パターンの選び方(P6～)

企業タイプに合わせた流通BMS導入パターン選定  
企業タイプに合わせた流通BMSおすすめタイプ(自社導入型編)  
企業タイプに合わせた流通BMSおすすめタイプ(サービス利用型編)  
現状に合わせたサービス選択のポイント

## こんなシステムベンダーに注意(P11～)

自社に合ったシステムベンダー選びの要件

## 導入パターンごとの概算費用(P14～)

自社導入型  
サービス利用型  
見積もり確認ポイント

## 導入の流れとポイント(P18～)

大まかな導入への流れ  
取引先説明会におけるポイント  
取引先拡大のためのポイント

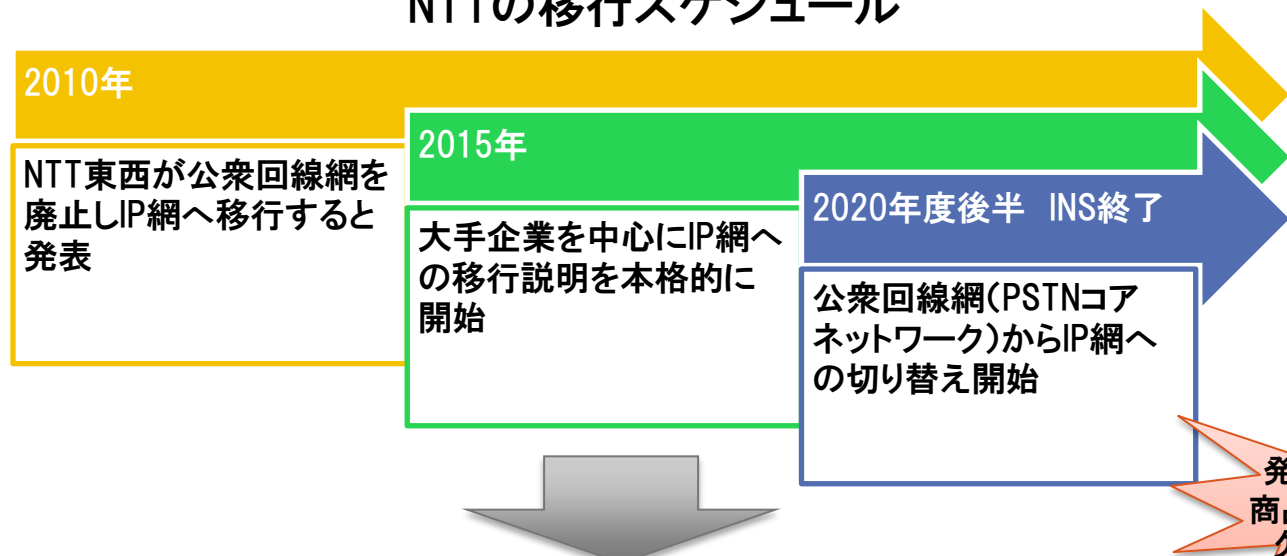
# EDIの現状

EDIにおいて標準EDIである流通BMSが広がっていますが、まだまだJCA手順等のレガシー手順を利用されている企業は少なくありません。そのような中、そのレガシー手順のEDIが使えなくなる日が迫っています。

以降でその内容と、取り組みにあたって注意する点を幾つかを紹介します。

# 公衆回線網の廃止はNTT東西の交換機の寿命であり、 機器の更新は避けられない!

NTTの移行スケジュール



今利用しているEDI(JCA手順、全銀手順、全銀TCP/IP手順)が  
**2021年3月には利用できなくなる可能性が高い**

**流通BMSへの更新は遅くとも2019年までに完了しておいてください!**

# 流通BMS以外の方法はありません！

Web-EDIは小口零細取引先向けの方法であり、これだけの提供はダメです。

## 卸・メーカーにおけるWeb-EDIと流通BMSの比較

	Web-EDI	流通BMS
初期投資	○ (一部製品を除き、専用ソフトは不要だが付加する機能により値段に幅がある)	△ (流通BMS用ソフトが必要だが機能としてはある程度揃っている)
データ仕様	× (小売個別仕様のため取引先に負荷がかかる一部取引先は断ってくる可能性もある)	○ (標準仕様のため取引先の負荷は軽減される)
データの自動連携	△ (できない場合が多く、実現のために機能を追加する必要などがある)	○ (EDIとして自動連携を前提とした設計)

(流通BMS協議会パンフレットより一部加筆)

**定常的に取引する企業は流通BMSを望んでいます  
流通BMSの選択肢も必ず提供してください！**

現在のEDIのトレンドは  
「流通BMS(大手取引先向け)+Web-EDI(零細取引先向け)」  
のセット

# 標準は守ってこそ最大限の効果を発揮します！

安易にやってしまうのは絶対にダメです。

**流通BMS利用目的** = **適正な利潤確保** **消費者利益の最大化**

※利益の最大化＝適品を的確な情報と適正な価格で提供できる



- ・ 実現性が薄まる！
- ・ 標準に沿わない部分は個に依存しリスクにもなる！

**誤解・間違い** **手抜きの特貫工事** = **標準に沿わない利用に・・・**

が一部見受けられるように・・・

**製配販** + **システムベンダー**

四位一体で、  
流通BMSの意義と内容を正しく理解して  
正しく取り組んでください！

# 流通BMS導入パターンを選び方

流通BMSには大きく2つの導入パターンがあり、それぞれにメリット、デメリットが存在します。

自社がどの導入パターンにあっているのか、以降を参考に確認してください。

# 企業タイプに合わせた流通BMS導入パターン選定

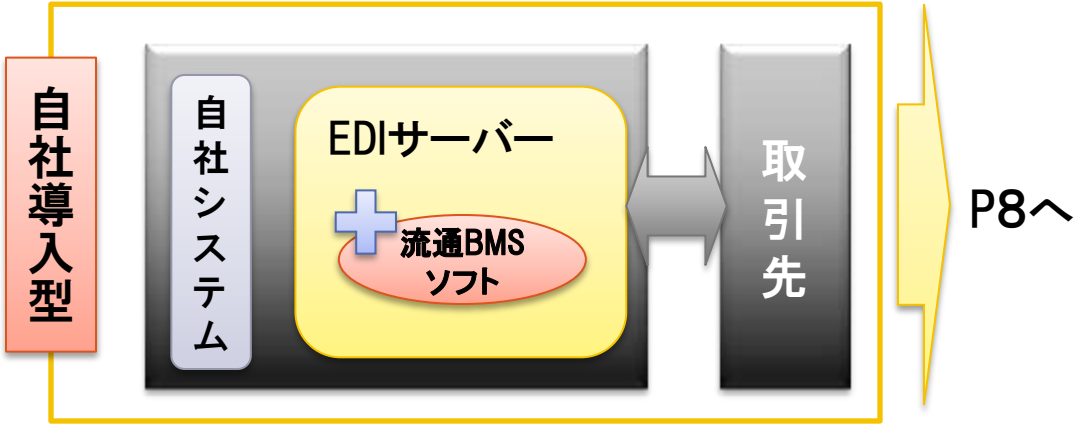
## 流通BMSの2つのパターン

流通BMSには大きく2つの導入パターンがあります。皆様はどのパターンですか？

取引先とのシステムに関するやり取りを自分たちである程度対応したい！  
IT戦略を考えて、フレキシブルな仕組みを組んでおきたい！

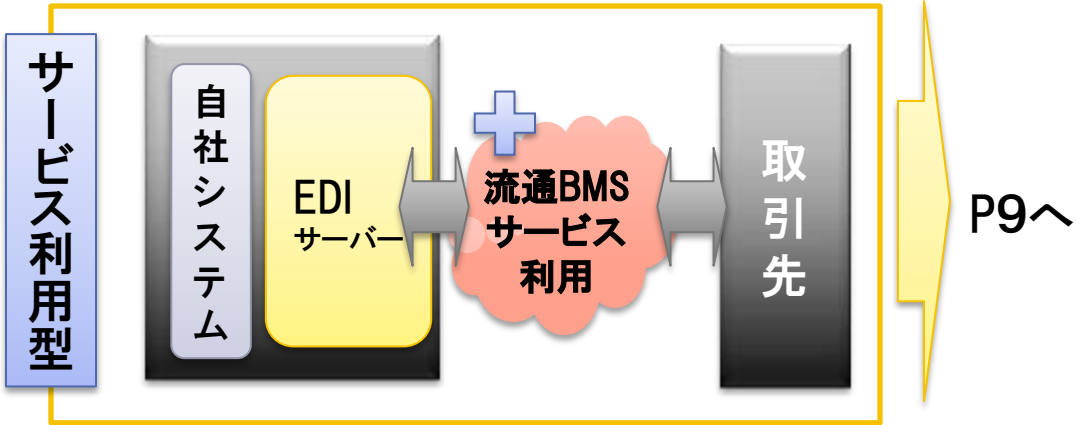
そんなあなたは

どっち？



導入の初期投資をあまりかけたくない。  
現在の基幹システムに大きな変更はかけたくない。  
取引先の対応もお任せしたい！

そんなあなたは





# 企業タイプに合わせた流通BMSおすすめタイプ(自社導入型編)

## 自社導入型編

現状発注運用

JCAを自社運用



自社システム

自社でシステム変更ができる。  
インターネットにかかわるセキュリティが完備できる。

できる!



おすすめ  
流通BMSタイプ

自社導入型

難しい……

システムベンダーにご相談するか、サービス利用型をご検討ください

自社導入型の場合、流通BMS導入手順に従い、業務の設計・開発からセキュリティ対策・運用設計、移行計画へと準備を進めていきますが、基本的には自社の責任で行う必要があります。

メリット

- ・即時性の高いデータ交換が可能
- ・取引先様運用も全て自社に情報を持つことができる。

デメリット

- ・全てを自社で段取りすることが必要
- ・ある程度のシステムノウハウが必要

# 企業タイプに合わせた流通BMSおすすめタイプ(サービス利用型編)

## サービス利用型編

現状発注運用

VAN会社を利用している。  
もしくは  
現在はJCAを自社運用しているが流通BMSでは外部サービス、クラウドなどを利用したい。

自社システム

基幹システムのレイアウトをEDI側に合わせる事ができる。  
初期投資(インシャル)をあまりかけたくない。

自社運用になるべく合せたい。  
導入・運用業務をアウトソーシングしたい。  
基幹システムのレイアウトは現状を保持したい。

おすすめ流通BMSタイプ

サービス利用汎用型

サービス利用自社専用型

### メリット

- ・初期投資が少ない。
- ・取引先にも接続事例があり双方安心できる。
- ・既にあるサービスの利用で稼働までの時間が短い。

### デメリット

- ・データがサービス事業者からバッチ処理で届く。
- ・レイアウト変更時にサービス事業者追加費用が発生する場合があります。



## 【現状に合わせたサービス選択のポイント】

- 1 まずは自社で構築できるノウハウや人員、コストがあるかどうか検討する。
- 2 自社の運用を加味し、自社導入型かサービス利用型を選定する。(システムベンダーに相談)
- 3 基幹システムサポート先にも相談し、現基幹システムのカスタマイズ費用を算出する。
- 4 サービス利用の場合はサービス提供事業者取引先に対してどこまでの導入支援、運用支援をするか確認する。
- 5 稼働後の運用や将来的なバージョンアップについても確認の上、システムベンダーを選択する。

※現状の運用やシステム環境が複数ある場合、部門や業態毎の切り分けが必要となりますが、現在では多くのシステムベンダーが事例を持っており、その状況に合わせた最適な流通BMSの提案ができるようになっています。以降の内容も参考にして、システムベンダーに確認してください。

# こんなシステムベンダー に注意！

流通BMSを導入するに当たって、大切なことの一つにシステムベンダー選びがあります。  
その注意点を以降に解説します。

## 流通BMSありきの提案をする企業を選択しましょう。

まずEDI導入検討にあたり、システムベンダーの提案で以下の提案・企業には気を付けましょう。

- JCA手順がまだ存在することを前提に、JCA手順やWeb-EDIの提案を行う。
- 流通BMSの通信手順であるJX手順、ebMS、(AS2)の手順選択ができない提案を行う。  
(例: JX手順のみ、Web-EDIのみ等)
- 基幹システムを入替しないと流通BMS導入はできないような提案を行う。
- 小売業側のみのシステムサービスしか提供(もしくはサポート)できない企業。  
(取引先側サービスは持っていない、もしくはサポートしない)



# 自社に合ったシステムベンダー選びの要件

## 標準外の導入方法や運用方法を勧めてこない企業を選択しましょう。

EDI自体の提案以外でも、導入方法や運用方法で以下のような内容を進めてくる企業には気を付けましょう。

- 標準メッセージ種があるにも関わらず、個別メッセージとして標準外な固定長、CSVデータの交換提案を行う企業。
- 取引先の稼働後運用サポートの体制を取らないような企業。(メールのみサポート受付可能等)
- 初期コストは安いが、導入後費用が大きくなるような提案を行う企業
- 基幹システムをサポートする別のシステムベンダーとの打合せのレスポンスが遅い企業。
- システムベンダー主導で小売業から取引先へのオンライン手数料を営業外収益増として提案の主軸にしてくる企業。
- 他社システムベンダーの提案に合わせて、小売業からの依頼があれば何でもするという企業。



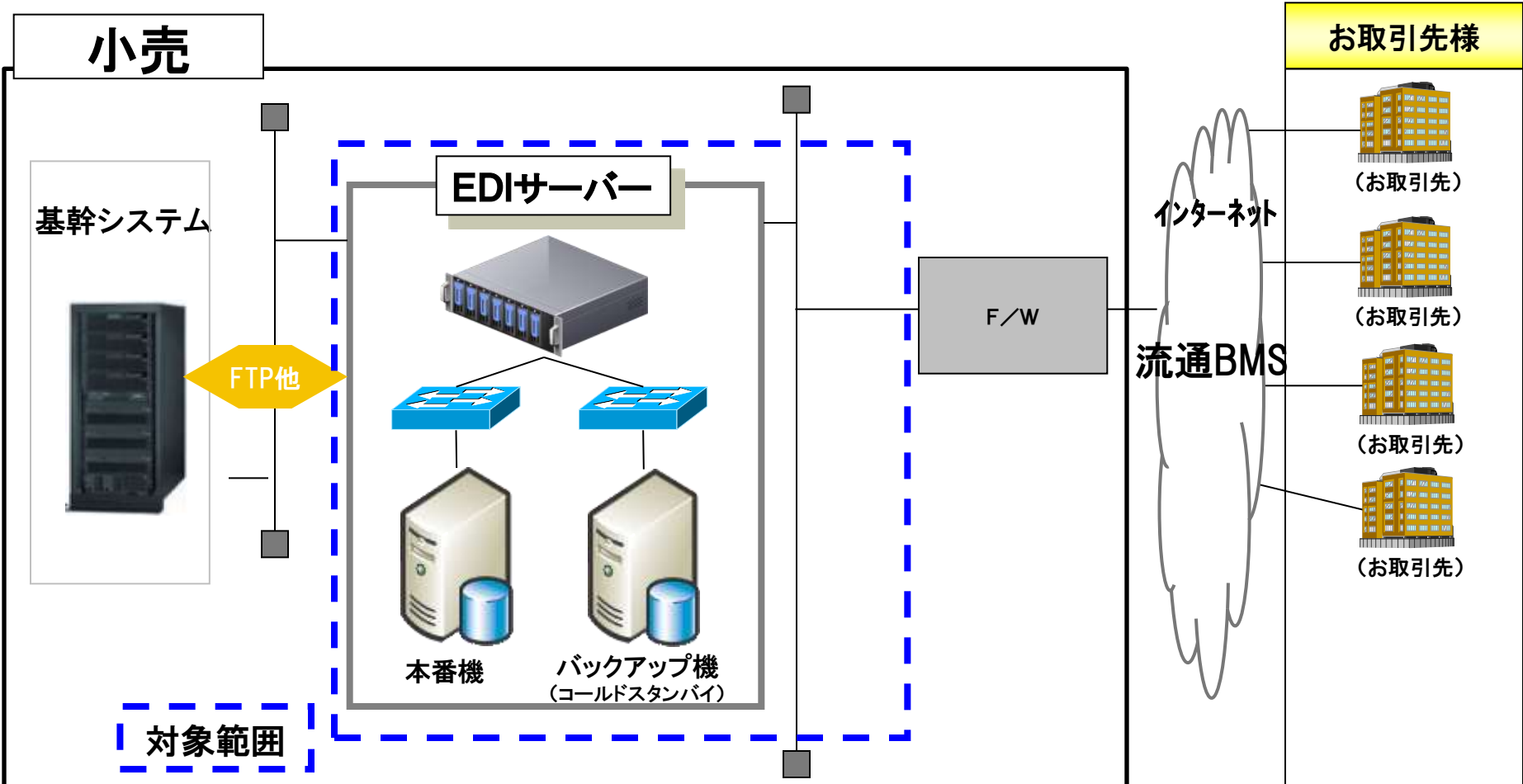
**JACDS**

日本チェーンドラッグストア協会

# 導入パターンごとの 概算費用(参考)

対象はEDI部分であり、あくまで参考値としての紹介とはなりますが、導入パターン別(自社導入型、サービス利用型)に、流通BMS導入の概算費用を紹介します。  
また、見積もりをもらった際の確認ポイントを参考として紹介します。

# 自社導入型 (システム構成例および費用例)



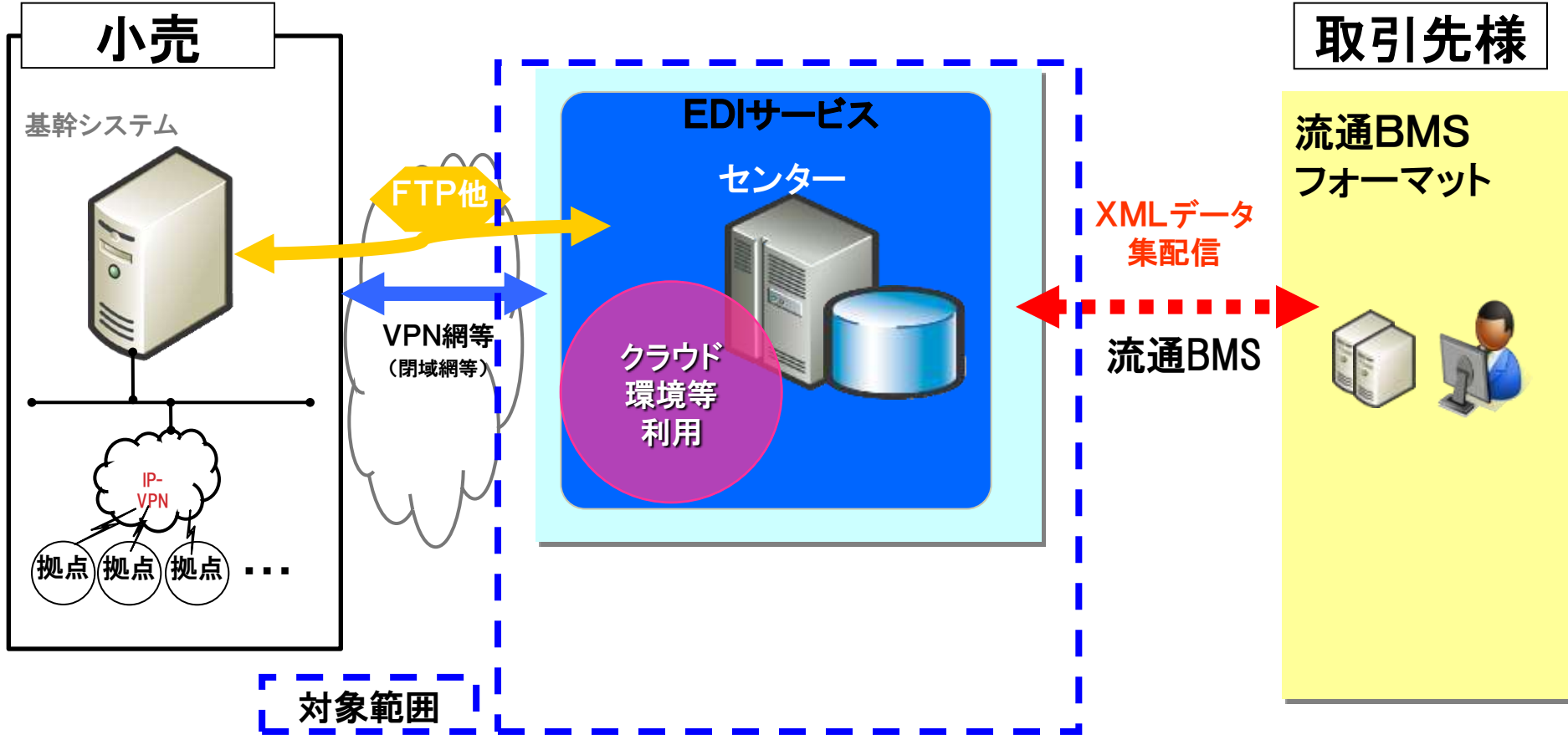
概算費用例	初期費用	年間保守費用
	約1千万円	約100万円

※概算費用例には、ハードウェア、ソフトウェア、導入費用が含まれています。

※概算費用例は、「対象範囲」の部分  
 ※固定長⇔XMLデータ変換マッピング作成する場合は別途費用が必要  
 ※ハードウェアの費用も含まれているが、クラウドの利用などでハードウェア自体の費用を抑えることもできる  
 ※小売のシステム状況や目的、各システムベンダーのビジネスモデルにより、費用は大きく異なる



# サービス利用型（システム構成例および費用例）



概算費用例	初期費用	月額利用料金
	約10万円/取引先	約1万円~/取引先

※概算費用例には、サービス提供に必要なとなるハードウェア、ソフトウェア、導入費用が含まれています。

※概算費用例は、「対象範囲」の部分  
 ※初期費用および月額利用料金は、1取引先あたりの料金  
 ※小売とEDIサービスセンター間の接続方法は別途相談  
 ※固定長⇔XMLデータ変換マッピング作成をサービス側で対応する場合別途費用が必要  
 ※本番稼働後のメッセージ種の追加は別途費用が発生  
 ※小売のシステム状況や目的、各システムベンダーのビジネスモデルにより、費用は大きく異なる

システムベンダーからの提案に対して、余分なもしくは足りない部分がないか、また保守やサポートが充分かを確認する必要があります。  
以下を参考に、その内容が含まれているかどうか確認してください。

- ・それぞれの導入パターンに合った提案範囲かどうか
- ・協定シート記入対応支援
- ・通信パラメータ設定支援
- ・社内ネットワーク環境設定の考慮
- ・導入スケジュールや取引先とのテストスケジュールの考慮

今回の参考費用には含まれておりませんが、この他にも基幹システムに取引先から送られてきたデータを取り込む、または取引先へデータを送るために変換が必要になる場合もあります。これらも明記されているか確認することもポイントとなります。

# 導入の流れとポイント

具体的に導入するフェーズにおいては、流通BMS協議会にて無料で公開されているガイドライン等を参考にシステムベンダーと調整して進めていただくこととなります。  
ここでは、その導入におけるおおまかな流れと幾つかのポイントを紹介します。

# 大まかな導入への流れ

システムベンダーが決まった後の導入の流れは以下となります。

- ①流通BMS XMLスキーマの準備
- ②マッピングシートの構築、基幹システムとのメッセージ確認
- ③システム設計、**主要取引先との事前確認**
- ④システム構築、ネットワーク環境構築、**主要取引先とのテスト**
- ⑤全取引先様へのご案内(**取引先説明会**)
- ⑥各取引先様との運用調整、協定シート等の取り交わし
- ⑦各取引先様のテスト、本部テストデータ作成
- ⑧本番運用開始
- ⑨**取引先フォロー、拡大支援**

●流通BMSの導入は以下のような手順で進めてください。  
導入が決定了ら、小売企業は卸企業に対するサービス内容を確認する必要があります。



※導入に関する詳細は流通BMSの導入ガイドラインに記載されています。

# 取引先説明会におけるポイント

取引先説明会を実施するにあたり、押さえておくポイントを紹介します。

- ・チェーン本部主導で取引先説明会を開催する必要があります。  
※実際の段取りはシステムベンダーが行う場合もあります。
- ・説明会までにシステム仕様や取引先様へのマッピングシートを完成しておく必要があります。
- ・説明会時には各取引先の状況等は分からないため、各社毎のフォローが必要です。  
※取引先毎の基幹システムの状況、稼働スケジュール等。
- ・説明会で各取引先の現状アンケートを実施し、把握する事が重要です。
- ・説明会以降の各取引先のフォロー、申込までの対応が最も重要です。



# 取引先拡大のためのポイント

本番稼働後に重要となるのは、取引先の申込みサポートや対応フォローです。実際に行われている例を以下に紹介します。

## 【対応例】

電話により説明会参加の御礼と説明内容の理解度をヒアリング、そして訪問説明アポイントをいただき各社訪問。流通BMSが将来的にも、取引先様にメリットがあることを改めて個別に説明。

### <環境面での考慮>

- ①初期導入にあたってのPC初心者でもわかりやすい提案。
- ②現在使用中のPC環境調査
- ③接続テスト

### <システム面での考慮>

- ①取引先の基幹システムと連携を取るため、基幹システムサポート会社と直接打合せができる体制を調整する
- ②現行JCA手順から流通BMS移行時の運用変更点の説明。(帳票、伝票レス等)
- ③GLNコード取得方法や協定シート手配、証明書取得に関する説明。

**上記含めたサポートが出来るシステムベンダーをお勧めします。**

流通BMSについては流通BMS協議会より様々な情報を提供しています。



以下ホームページをご覧ください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>

もしくは

流通BMS協議会

検索

流通BMS標準仕様に関する  
ガイドラインなど

流通BMSロゴ許諾  
製品一覧

標準仕様に関する  
問い合わせ

# JACDS

日本チェーンドラッグストア協会

<http://www.jacds.gr.jp/>